

令和 6 年度

仙台市学校図書館運営モニタ校 取組事例集



令和 7 年 11 月

仙台市教育委員会

はじめに

この事例集は、仙台市子ども読書活動推進計画に基づき平成29年度から実施している「学校図書館運営モデル校事業」の、令和6年度モデル校の取組をまとめたものです。

モデル校が実施した学校図書館運営に関する取組内容や取組の結果等を紹介していますので、各校における学校図書館運営の参考としていただき、子どもの読書環境の充実につなげていただけないと存じます。

1	仙台市子ども読書活動推進計画 2024について	
(1)	計画の策定	1
(2)	計画の目的と基本的方針	1
(3)	読書活動の状況を把握するための指標	2
(4)	重点的な取組	2
2	仙台市学校図書館運営モデル校事業	
(1)	計画における位置づけ・事業概要	3
(2)	令和6年度モデル校の取組事例紹介	3
	・東二番丁小学校	4
	・南光台小学校	6
	・西山小学校	8
	・高森東小学校	10
	・栗生小学校	12
(3)	令和6年度モデル校事業の総括・今後	14

1 仙台市子ども読書活動推進計画 2024について

(1) 計画の策定

仙台市では、平成13年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、子どもの読書活動に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成16年12月に「仙台市子ども読書活動推進計画」を策定しました。以降、おおむね5年ごとに策定される国の基本計画を踏まえながら、平成24年3月に第二次計画を、平成29年1月に第三次計画を策定し、家庭、地域、学校、図書館等様々な場所、機会において子どもが読書に親しむことができるよう取組を進めてきました。

第四次計画にあたる「仙台市子ども読書活動推進計画2024」においては、第三次計画期間（平成29年度～令和5年度）の取組を検証しながら、子育てや学校教育に関する部局含め、組織横断的に子どもの読書活動のさらなる推進に取り組んでいます。

(2) 計画の目的と基本的方針

計画の目的

子どもが他者と関わりながら生活の中で読書に親しみ、読書体験を通して心豊かに、しなやかに生きる力を育むことができる環境をつくる

子どもが読書に親しむためには、子ども自身が読書の楽しさを知ることに加え、保護者や教員をはじめとした身近な人の理解や支えが必要です。市民一人ひとりが子どもの読書活動の意義を共有し、社会全体で推進していくという気運を高め、子どもが読書体験により、豊かな心としなやかに生きる力を育むことができる環境づくりを目指します。

基本的方針

(1) こどもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさ、大きさを知ることができるよう、家庭、地域、学校、図書館等といった身近な場所において、子どもが読書に触れ、親しむことができる機会を幅広く提供していきます。また、子どもの発達段階に応じた読書活動支援を行い、子どもが読書を継続的に楽しむことのできる力を育て、不読率の低減を目指します。

(2) こどもの読書環境の整備・充実

子どもが興味を抱き、感動をおぼえる良質な本を身近に整えるなど、デジタル社会への対応を含めた読書環境の整備・充実を図ります。また、バリアフリー資料の収集、整備により、多様な子どもたちの可能性を引き出すための読書機会の確保に努めます。さらに、学校の教職員や地域の施設の職員、ボランティア等、子どもの読書活動を支える人材の育成や活動の支援に取り組みます。

(3) こどもの読書に関する理解の促進

子どもの身近にいる大人に対し、児童書や子どもの読書に関する活動等の情報を幅広く提供するとともに、本計画の周知を行い、子どもが本を読むことの意義や大切さについて啓発を図ります。また、子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを通して、子どもの読書活動に対する理解を深め、社会全体で子どもの視点に立った読書活動を支える気運を高めます。

(4) 家庭、地域、学校、図書館、ボランティアなどの連携・協力

家庭、地域、学校、図書館、ボランティア等、子どもの読書活動を取り巻く様々な主体が相互に協力し、連携を図りながら計画を推進します。

(3) 読書活動の状況を把握するための指標

こどもを取り巻く環境が大きく変化し、読書活動に影響を与えていた可能性もありますが、こどもの読書活動の状況を把握するうえで下記の指標は有用と考えられるため、引き続き計測し、計画の進度や効果の検証のために活用していきます。

成 果 指 標	令和5年度 実績	
家や図書館でふだん（月～金）1日に30分以上読書する児童・生徒の割合（教科書、参考書、漫画、雑誌を除く。）	小6	32.1%
	中3	24.5%
昼休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書館や地域の図書館へ月1回以上行く児童生徒の割合	小6	27.9%
	中3	14.2%
市立図書館児童書蔵書冊数 (15歳以下1人あたりの平均蔵書冊数)	5.6 冊	
市立図書館児童書貸出冊数 (15歳以下1人あたり年間平均貸出冊数)	11.2 冊	
市立小・中学校の学校図書館貸出冊数 (1人あたりの年間平均貸出冊数)	小	45.4 冊/年
	中	8.4 冊/年
市立図書館おはなし会参加人数	8,206 名	
1か月に1冊も本を読まない子どもの数（不読率）	小	3.6%
	中	24.8%

(4) 重点的な取組

計画の目的を達成するために、4つの基本の方針のもと、計画の推進を図っています。

方針1 こどもが読書に親しむ機会の提供	○乳幼児が本に触れるきっかけづくり ○小学生までのこどもに向けた家読の推進 ○多彩な読書活動の推進 ○中高生（ヤングアダルト世代）への読書支援
方針2 こどもの読書環境の整備・充実	○デジタル社会に対応した読書環境の整備 ○多様なこどもたちの可能性を引き出すための読書機会の確保 ○こどもの視点に立った読書活動の推進
方針3 こどもの読書に関する理解の促進	○保護者の理解促進 ○子ども読書の日（4月23日）等の推進
方針4 家庭、地域、学校、図書館、ボランティアなどの連携・協力	○こども読書活動についてのホームページの一元化

② 仙台市学校図書館運営モデル校事業

(1) 計画における位置づけ・事業概要

計画 2024 では、学校における取組として「学校図書館の環境整備の工夫」を掲げており、その具体的な取組の 1 つが、平成 29 年度より開始した「学校図書館運営モデル校事業」です。

当事業では、学校図書館を利用する児童生徒を増やし、子どもの読書に対する興味関心を喚起するための取組の推進を目的として、学校図書館運営に関し特色のある取組を行う学校を学校図書館運営モデル校に認定し、図書購入費等の重点配分を行います。

令和 6 年度も、学校図書館運営に関し先進的・特徴的な取組を実施している学校や今後の取組が期待される学校をモデル校に認定し、図書購入費及び備品購入費、消耗品費の重点配分を行いました。

＜令和 6 年度モデル校＞

学校種別	学校名	重点配分額 (図書購入費)	重点配分額 (備品購入費)	重点配分額 (消耗品費)
小学校 (5 校)	東二番丁小学校	150 千円／校	80 千円／校	5 千円／校
	南光台小学校			
	西山小学校			
	高森東小学校			
	栗生小学校			

(2) 令和 6 年度モデル校の取組事例紹介

各モデル校において、読書に関する課題や当事業実施に当たり定めた実施目標のもと、重点配分予算を活用した図書及び備品等の購入による読書環境の整備をはじめ、図書館の運営・利活用に関する様々な取組が行われました。

図書の購入に当たっては、児童生徒自身が選書会に参加する機会を設け、読書と図書館に関心が向くよう取り組んでいただいた学校が多く見られました。また、保護者や地域の方にも参加していただき、子どもの読書に関する理解の促進に取り組んでいただきました。

備品等の購入に関しては、移動書架や展示スタンド等の整備・活用により、本を手に取りやすく、読書のきっかけとなるような環境を整えていただいた学校が多く見られました。

また、教職員と図書事務員による学校内の連携や、地域の方や市立図書館との協働、保護者への働きかけ等により、多方面から子どもの読書活動の推進に取り組んでいただきました。

東二番丁小学校

【児童数：206人】
(R.6.5.1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

- ・児童の読書への興味関心を高め、図書館利用を増やす。
- ・学習センター、情報センターとしての機能をより高める。
- ・保護者の読書への興味関心を高める。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- ・図書館を利用する児童が決まっている。
- ・これまで授業で活用する図書の蔵書を増やしてきたが、まだ十分でない。
- ・保護者の関心が、少し図書館へ向いてきているところである。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 児童・保護者・教員対象の選書会の実施、リクエストBOXの設置【継】

- 本に対する興味関心を高めるため、図書館運営に関わる機会として、児童・保護者・教員による選書会の実施、リクエストBOXの設置を行った。

2 学級貸し出しの強化【新】、授業で使う本をそろえる【継】

- 本に対する興味関心を高めるため、図書館から各学級に本を貸し出し、定期的に入れ替えて運用した。
- 先生方のニーズに合わせて、学習で使う本を選書、蔵書に加えた。

3 児童同士で本を紹介し合う企画を行う【新】

- 委員会活動を通して、テレビ放送、本の内容クイズ、塗り絵コンテスト等児童の興味関心に合わせた紹介活動を通じて、児童同士で本を勧め合う機会を設定した。

4 目標冊数達成・ブックリストを完読した児童の表彰【継・新】

【学級貸し出し】

- 目標冊数を60冊・100冊として、達成した児童を表彰した。また、教科書に掲載されている本や、教職員が勧める本などから5冊程度を選び、ブックリストを作成した。また、完読した児童を表彰した。



取組による効果

1 児童・保護者・教員対象の選書会の実施、リクエストBOXの設置【継】

- こどもたちが興味を持つ本が増え、貸し出し予約が増えた。それに伴い、授業以外の時間に来館する児童が増えた。
- 2年連続で選書会を保護者にも開いたことで、昨年よりも保護者の参加人数が増え、図書館の蔵書に興味を持ってもらうことができた。

2 学級貸し出しの強化【新】、授業で使う本をそろえる【継】

- 学級へ貸し出しを行うことで、図書館では手に取られにくい本も読まれる様子が見られた。
- 授業で使う本をそろえられたことで、授業での図書館活用が進んだ。

3 児童同士で本を紹介し合う企画を行う【新】

- 今まで読んでこなかった本を読み、その内容に感動したり、面白さに気付いて同じシリーズの他の本も借りたりする姿が見られた。

4 目標冊数達成・ブックリストを完読した児童の表彰【継・新】

- 目標達成に向けて、普段休み時間に図書館に来なかつた児童も来館し、本に興味を持つ姿が見られた。

目標の達成状況

- 選書会の開催、図書委員会による各種イベント、目標冊数達成児童やブックリストを完読した児童の表彰等を行うことで、普段図書館に足を運ばないこどもたちも意欲的に足を運ぶ姿が見られた。前年度と比較すると、貸出冊数は2,074冊増え、平均貸出冊数も0.6冊増えた。
- 先生方の希望から蔵書の充実や書籍を活用しやすい環境の整備に努めたことで、授業での図書館資料が充実し、授業での活用が進んだ。
- 昨年よりも選書会に参加したり、ブックリストの取組について図書事務にお話しされたりする保護者が増えた。

取組を振り返って

- 選書会の実施やリクエストBOXの設置によって、こどもたちが興味を持つ本が増え、多くの児童が来館していた。次年度以降もこうした取組を続けていくことで、図書館の魅力が高まり、来館者数や貸出冊数の増加につながっていくと考える。
- 学級貸し出しを強化したところ、どの学年も貸し出した本を手に取っている様子が見られた。反面、高学年になるほど手に取る児童が少なかったので、高学年へのアプローチに課題がある。
- 先生方の希望をもとに蔵書の充実に努めた結果、学級への貸し出しが増えた。一方で、該当する分野の書籍がなく、授業のニーズに応えられなかつた事案が何件かあった。今後も引き続き蔵書の充実や環境整備を進め、学習・情報センターとしての機能を高めていきたい。
- 図書委員会主催のイベントにより、来館者数が増えていた。
- 1レベルにつき5冊でブックリストを作成したところ、昨年度よりも多くの児童が挑戦していた。どのレベルから挑戦してもよいことにすることで、自分に合ったレベルを選んで挑戦したり、簡単に読めたからもっと難しいレベルのものにも挑戦したいと意欲を持って取り組んだりする姿が見られた。読書の質を高めていくため、次年度も継続していきたい。



【ブックリスト】

◆ 注目POINT ◆

- ブックリストを1レベルにつき10冊から5冊に減らしたこと、より多くの児童が取り組んでいた。5冊読んだことで自信が付いて更に上のレベルに挑戦する様子も見られた。また、シリーズでいろいろな話がある本を選んだところ、その面白さに気付き、同シリーズの他の話も貸し出しが増えた。
- 図書だよりの発行や保護者向けの選書会の開催など、保護者への発信を継続したことで、図書館への関心が高まった。保護者向けの選書会は、昨年度より参加される保護者が増えた。

南光台小学校

【児童数：696人】

(R 6. 5. 1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

進んで読書に親しむ児童を増やし、読書の質と量を向上させる。

児童一人当たり年間読書冊数を50冊以上にする。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

毎週月曜日の朝に20分間「読書タイム」を設定し、学級ごと読書を行っている。しかし、図書室を日常的に利用する児童が偏り、一人一人の読書量の差が大きい。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 読み聞かせの実施（地域ボランティア）【継】、児童・保護者・読み聞かせボランティアによる選書会【継・新】

- コロナ対策のために回数を減らしていた「本のたまご」による読み聞かせ（15分）を月曜朝の読書タイムに設定し、回数を増やした。1～2年生と特別支援学級は、月に2～3回。他の学年は、2か月に1回実施した。また、「つづらぽんぽん」による素話を全学年国語の時間に年間1～2回、実施した。
- 夏休みの教育相談の期間に保護者や地域の方対象の選書会を行った。書店に500冊の児童書を準備してもらい1週間展示し、希望をとってそれを基に図書を購入した。（児童は、夏休み前に実施）

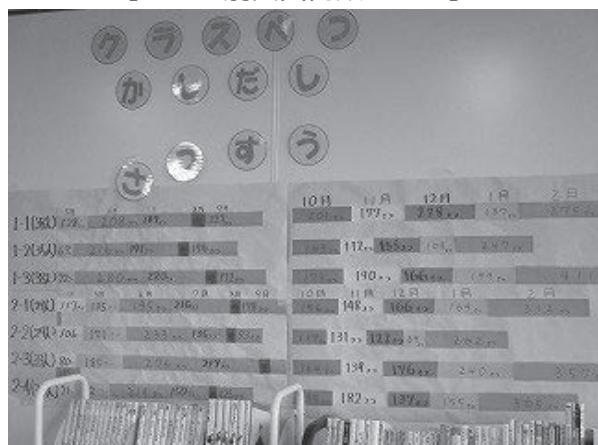
2 毎週月曜日の読書タイムの実施【継・新】

- 多忙な高学年児童が本の貸出を受けやすいように、今年度は、高学年のみ月曜の朝の読書タイムに合わせて始業前に図書室を開放し、2冊貸出を行った。

3 多読賞の設定【継・新】

- 年間50冊読了した児童に対し「多読賞」を授与した。また、学年別に必読書（おすすめの本100選）を設定し、必読書を読破した児童に対しスタンプを押した。新たに、月ごとクラスの貸出冊数をグラフにして掲示した。

【クラス別貸出冊数グラフ】



4 読書環境整備【新】

- 書架の分類表示を低学年でも分かるように見やすいものにリニューアルした。移動書架等を使用して、月ごとのおすすめ本を紹介し（先生たちがこどもの頃に読んでいた本・今月読んで欲しい本等）、本の選択肢を増やした。

取組による効果

1 読み聞かせの実施（地域ボランティア）【継】、児童・保護者・読み聞かせボランティアによる選書会【継・新】

- 選書会に参加したり、本を紹介し合ったり、紙芝居や図書ボランティアの読み聞かせを聞いたりするなど、本に触れる機会が増え、「自分たちの図書館」という意識を持つ児童が多くなったと考えられる。



【読み聞かせの実施】

2 毎週月曜日の読書タイムの実施【継・新】

- 授業時間で図書の時間を取りにくい学年のための月曜の朝の特別貸し出しは、週1度でも図書室に来るきっかけになった。

3 多読賞の設定【継・新】

- おすすめの本の紹介等を参考に、様々な本を選んで読書する児童が増えた。

4 読書環境整備【新】

- 分類表示など図書室の掲示を見ることで、本を選んだり、図書室を利用したいという意欲付けができた。

目標の達成状況

- 進んで読書に親しむ児童が増え、読書の質と量が向上した。
- 児童一人当たり年間平均読書冊数は、昨年度どの学年も50冊に到達しなかったが、今年度は5学年が達した。

取組を振り返って

- 令和6年度の学校図書館の児童の年間貸出総数（～3月14日まで）は41,870冊で昨年度の30,289冊より約1.4倍増えた。各学年の貸出数も増えている。仙台市の一人当たりの貸出冊数の目標は、下学年50冊・上学期35冊であるが、全学年大きく超えている。年間図書館以外の本も含め一ヶ月に11冊以上本を読む児童も200名おり、これは全体の32%に当たり、令和5年度より3%の伸びである。
- 子どもが親しみを持つ図書館の環境整備や児童が本に興味を持つような様々な仕掛けをするとともに教職員や保護者の意識を高めていくことが大切である。今後も様々な場面で児童と本をつなぐ取組を引き続き実践していきたい。

◆ 注目POINT ◆

- 月曜の始業前の高学年対象の図書室の開館・・・多忙な高学年が図書室に来るきっかけになりました。また、担任の先生も読書タイムに向けて声掛けをしたことで、意欲が高まった。
- クラス貸出冊数の月掲示・・・自分のクラスの冊数が掲示されることを楽しみにしている児童もあり、図書室に足を運ぶ機会が増えた。

西山小学校

【児童数：322人】

(R 6. 5. 1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

- ・ブックトークや児童による選書会を開催する。
- ・児童同士での好きな本の面白さについて発信する。
- ・全校児童のうち、月5冊以上読書する児童の割合を70%にする。
- ・お気に入りの本があると答える児童の割合を80%にする。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 協働型学校評価重点目標に読書活動の推進を掲げて取り組んできている。近年読書離れが進み、読書に興味や関心を持ってもらうことが学校の課題となっている。
- 開校から34年目を迎える、図書室の本が古くなっていて、入れ替えが進んでいない。児童の興味や関心をひくためには、蔵書の入れ替えを進める必要がある。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 ブックトークと選書会の実施【継】

- 各学年で年間1～2回のブックトークを実施した。
- 昨年度から復活した児童による選書会を7月に行った。



【ブックトーク】

2 読書賞の設定【継】

- 令和5年度までの受賞該当冊数について、少しでも多くの児童に受賞してもらいたいとの思いから見直しを行った。

3 本の紹介活動や児童による本の読み聞かせの実施【新】

- 各クラスや図書委員会で「おすすめの本」や「お気に入りの本」をこどもたち同士で紹介し合う活動を行った。また、6年生が1年生に本の読み聞かせを行った。

4 家庭読書週間の実施【継】

- 「メディアコントロールウィーク」に合わせて家庭と協力し、読んだ本についての記録をカードに書き、保護者も感想や返事を書いて学校に提出するようにした。

5 「絵本出てくるおいしい料理と給食献立のコラボレーション」で取り上げた絵本の昼の放送で読み聞かせ【継】

6 「読書量を増やすための取組」(おみくじボーナスデー) の実施【新】

- 読書活動を更に盛り上げるために、代表委員会で話し合って図書委員会が中心となり、放送委員会が協力して、普段は10冊借りたらもらえるボーナスカードをボーナスデー実施日に図書室で本を借りると特別なボーナスカードを1人1枚もらえるという「おみくじボーナスデー」を実施した。

取組による効果

1 ブックトークと選書会の実施【継】

- 宮城野図書館や仙台市図書館ブックトークボランティア「ランプ」の方々のご協力を得て、様々なテーマのブックトークを開催することができ、新たな読書の意欲を高めることにつながった。
- 選書会を早い時期に設定したことによりモデル校の予算で購入した本を早めに児童に提供することができ、読書意欲の向上につながった。

2 読書賞の設定【継】

- 1年生の読書賞（2学期）の受賞基準を、20冊から17冊に見直したことにより、多くの児童が受賞し、読書に対する意欲を高めることにつながった。1年生は全員が受賞することができた。

3 本の紹介活動や児童による本の読み聞かせの実施【新】

- 図書委員会では、「図書館まつり」において「図書bingo」や「しおり」のプレゼントなどを行った。今年度は「先生方のおすすめの本」の紹介コーナーを催し、おすすめの本に対する興味や意欲を高めることができた。
- 各クラスでの本の紹介活動の取組としてロイロノートに感想や面白さの度合いを載せ、全員が見られるようにしたり、朝の時間に好きな本についてグループで話し合ったりしたことで個々の児童が読んだことのない本について知る機会となった。
- 1年生のお世話に行っていた6年生が、1年生に絵本の読み聞かせを行った。選書を工夫し、6年生にとって他者のために本を手に取る貴重な機会となった。

4 家庭読書週間の実施【継】

- 「メディアコントロールウィーク」に合わせて、家庭で読書に取り組む意識を高める取組の一つとなつた。

5 「絵本に出てくるおいしい料理と給食献立のコラボレーション」で取り上げた絵本の昼の放送での読み聞かせ【継】

【絵本に出てくるおいしい料理】



- 絵本に出てくる料理と給食献立のコラボ企画を年間7回行った。児童は毎回楽しみにしており、絵本の読み聞かせを聞きながら、絵本に出てくる料理を給食で味わって想像を広げる機会となった。

6 「読書量を増やすための取組」(おみくじボーナスデー)の実施【新】

- 代表委員会で議題として取り上げたこともあり、児童が考える機会となつたのと同時に、取組に対する宣伝効果があった。「おみくじボーナスデー」がいつ出されるのか分からないので、楽しみながら図書の本を借りる姿が見られた。1日で100冊以上の貸し出しがあった日が何日もあった。

目標の達成状況

- 1か月に5冊以上読書する児童の割合は約57%となり、目標値には届かなかつたが、学校全体の読書量は増えている。
- 全校児童の約77%がお気に入りの本があると回答した。目標値にはわずかだが届かなかつたが、お気に入りの本が多いという点で目標は達成できた。

取組を振り返って

- 読書量を増やすだけでなく、読書冊数が少なくて気に入った本があることで読書が好きな児童を増やしたいとの思いで今年度は取り組んできた。様々な取組をしたことで、図書館に足を運ぶことを楽しんでいる児童が多くなったと感じる。全校的には、お気に入りの本がある児童が多いという点で目標は達成できた。しかし、それが進んで読書することには直結しないところが課題だと思われる。児童同士の本の紹介活動は、まだ始まったばかりのため、今年度の取組を生かして来年度も更に工夫していきたい。
- 数値目標は達成できなかつたが、1か月に11冊以上本を読んでいる児童が令和5年度と比較して23%以上増えている。読書好きの児童は、より本を読んでいる様子がうかがえる。また、学校全体の読書量は、令和4年度が9,752冊、令和5年度が9,835冊、令和6年度が9,915冊となつた。徐々に冊数は増えており、今後も図書好きの児童がより増えていく取組を続けていくことが大切だと感じる。

◆ 注目POINT ◆

- ブックトークや児童同士の本の紹介活動を行つことで様々な本に興味を持つようになった。
- 「おみくじボーナスデー」は、代表委員会で話し合つて児童の意見から実施できたことにより、自ら図書室に行く児童の姿が多く見られるようになった。

高森東小学校

【児童数：279人】
(R 6. 5. 1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

児童が図書室や読書に親しむ機会を増やすことにより、読書習慣の確立を図る。児童がいろいろな本に親しみ、令和6年度の貸出数が令和5年度の貸出数を超えることを目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- クロームブックの導入等により、本に親しんだり、本から情報を得たりする機会が減っている。また、学年が上がるにつれて読書数が減少する傾向が見られる。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 児童、教員による早期の選書会の実施【新】

- 児童、教員による選書会を実施し、選書会の結果をもとに図書購入を行った。例年（11月）より早い時期（7月）に行い、夏休み中に購入する本を選定した。

2 読書賞の設定【継】

- 10冊借りるごとにごほうびシールを渡す。児童は読書カードにシールを貼り、借りた本の数を可視化した。

3 図書まつりの実施【継】

- 図書委員会による図書まつりを設定し、2週間の期間中7冊本を借りた児童に、手作りのしおりをプレゼントした。また、昼の校内放送で、学年毎の人気の本ランキングを紹介した。期間中に学校図書だよりを発行し、図書まつりの様子や図書事務の方々のお勧めの本を紹介した。

4 教員や図書委員によるお勧めの本カードの掲示【継】

- 年間を通して、教員のお勧めの本（図書室にある本から選定）カードを掲示した。また、図書委員によるお勧めの本カード・ポップも併せて掲示した。



5 地域の団体による読み聞かせの実施【継】

- 1、2年生対象で、地域で活動している読み聞かせの団体（2団体）に読み聞かせをお願いした。（月に2～3回程度）

6 組み立て式書架の設置【新】

- 備品購入費で購入した組み立て式書架に、貸し出し数の多い本を配架して、児童が本を選びやすいように配置した。

取組による効果

1 児童、教員による選書会の実施【新】

- 児童が選書に関わることで、図書館や読書への関心が高まった。7月に選書会を行い夏休み中に本の選定・発注をしたので、9月以降順次新しい本が届き、児童が新しい本に触れる機会が増えた。新刊は見やすいうようにレイアウトしていただき、児童がいろいろなジャンルの本を手に取る一助となった。

2 読書賞の設定【継】

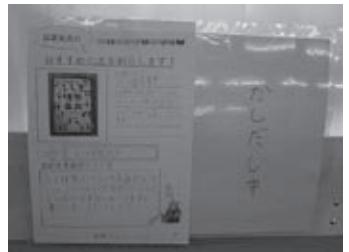
- 10冊読むごとに読書カードにシールを貼ることができ、大体何冊読んだか可視化できるため、児童の読書意欲向上につながった。

3 図書まつりの実施【継】

- 手作りのしおりに人気が集まり、特に下学年の児童がたくさん図書室に訪れた。レイアウトされた新刊コーナーを見ながら、本を選ぶ様子も見られた。こどもたちが図書室に足を運ぶきっかけとなった。

4 教員や図書委員による「お勧めの本」カードの掲示【継】

- 年間を通して、教員の「お勧めの本」カードを掲示した。高学年向きの本から低学年向きの本までいろいろなジャンルの本を紹介したので、こどもたちが本を選ぶときの参考になったようだった。また、図書委員による「お勧めの本」カードやポップは児童の関心を引き、紹介された本の貸し出し数が多かった。



【図書委員からのおすすめの本】

5 地域の団体による読み聞かせの実施【継】

- 読み聞かせグループの方々による表情豊かな読み聞かせや素話により、児童は物語の世界に引き込まれ、豊かな時間を過ごすことができた。紹介していただいた物語や関連する昔話等への興味が高まり、読書のきっかけとなった。



【2年生での読み聞かせ】

6 組み立て式書架の設置【新】

- 高学年に人気のある新書版の本を配架することにより、児童が本を選びやすくなった。

目標の達成状況

- 令和6年度の1か月の平均読書冊数（5～11冊以上）は、56%であった。全体の約半分の児童が月に5冊以上の本を読んでいて、少しずつ読書習慣が定着していることが分かる。また、1人あたりの年間平均貸出冊数について令和5年度と令和6年度を比較すると、2年生が48.2冊から57.7冊で9.5冊、3年生が40.8冊から49.0冊で8.2冊増えたが、1、4、5、6年生では減少し、全学年で目標を達成することはできなかった。この結果を参考に、来年度は上学年の読書数を増やす取組を検討していきたい。

取組を振り返って

- 児童が本に親しみ、読書を楽しむ習慣を身に付けるためには、本に触れる機会を作り出すことが重要だと感じた。図書まつりや選書会などのイベントを行い、児童が図書室に足を運ぶ機会を増やしたことは、読書のきっかけになった。
- 先生方や図書事務員から様々なジャンルの本を紹介していただいたことや、地域の方から読み聞かせをしていただいたりしたことが、読書への関心の向上につながった。
- 上学年については、本を使って調べ学習を行うなど、授業で本を活用し、本に触れる機会を増やす必要もあるのではないかと感じた。

◆ 注目 POINT ◆

- より多くのジャンルの本を手に取ってもらえるように、年間を通して教員や図書委員がお勧めの本を紹介したこと。
- 図書事務員と委員会が協力してお勧めの本の紹介などの掲示物の作成を行い、図書室の環境を工夫していること。

栗生小学校

【児童数：547人】

(R 6.5.1現在)

◆ モデル校としての目標 ◆

児童が図書館や読書に親しみやすい環境を整備することにより読書習慣の確立を図り、全児童の50%以上が年間30冊以上読むことを目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

- 図書館利用が定着しておらず、足を運ぶ児童が固定してしまっている。
- 学年が上がるにつれ、年間の読書冊数が低下する。

取組内容 ※【新】=新規取組 【継】=継続取組

1 毎月のビブリオバトルの実施【継】

- おすすめの本を紹介し、投票するイベントを定期的に行つた。「第2水曜日はビブリオバトルの日」と校内放送で開催を宣伝した。

2 校内読書感想文コンクールの実施【継】

- A4サイズのカードに、感想画と共に簡単な感想文を書く。図書祭りの開催と並行して行った。

3 図書委員会主催の図書祭りの取組【継】

- 本の表紙のイラストパズル、読書感想文コンクール、本の福袋の3大イベントを開催した。塗り絵やくじなどの景品や賞状などを用意し、準備を整えた。開催中図書委員は法被を着て祭りの雰囲気を高めた。

4 図書委員による紙芝居の読み聞かせ【新】

- 新たに購入した紙芝居の中から、図書委員が低学年や中学年に向けて読み聞かせをした。校内にある和室で実施した。



【図書委員による紙芝居】

5 保護者による選書会の開催【新】

- 図書便りで呼びかけ、申し込みがあった保護者が図書室で選書を行つた。

6 100冊以上読んだ児童へのプレミアム賞授与【新】

- 100冊以上図書室から本を借りた児童へ賞状を発行した。賞状の授与は、校長室で校長から手渡しをした。

取組による効果

1 毎月のビブリオバトルの実施【継】

- 毎月のビブリオバトルの開催を児童が大変楽しみにしており、紹介された本を読みたいと図書室に探しに来る児童も増えた。

2 校内読書感想文コンクールの実施【継】

- 校内読書感想文コンクールで入賞すると、自分の読みたい本を図書予算で購入してもらえることができる。その本は図書室の本になるのだが、新品の本を一番に読めるということが大きなモチベーションにつながることで、110人の児童がコンクールに参加した。



【校内読書感想文コンクール表彰式】

3 図書委員会主催の図書祭りの取組【継】

●図書祭りでは、表紙パズルや本の福袋を実施した。表紙パズルでは、制限時間以内にクリアした児童にしおりをプレゼントした。参加した児童は嬉しそうにしている様子であった。



【図書祭り】

4 図書委員による紙芝居の読み聞かせ【新】

●以前図書室にあった紙芝居は古い物ばかりだったが、今回の予算で新たに紙芝居を購入することができた。読み手の図書委員も喜んで紙芝居を選び、声色を変えながら上手に紙芝居を読んでいた。

5 保護者による選書会の開催【新】

●参加した保護者は5名と少なかったが、「貴重な機会に感謝します。」と参加した保護者からは御礼の言葉を伝えられた。



【保護者による選書会】

目標の達成状況

●令和6年度の全校児童中年間30冊以上読書する児童の割合は、58.5%となり、目標を達成することができた。しかしながら、高学年の児童の年間30冊以上読書する児童の割合は12.2%程度で、学年が上がるにつれて読書冊数が低下する現状は変わっていない。

取組を振り返って

●今年度は、学年による読書冊数のばらつきを少なくすることはできなかつたが、中学年の年間平均貸出冊数を、昨年度より17冊以上増やすことができたことは大きな成果だった。全校児童の年間平均貸出冊数も、昨年度より2冊の増加となっており、児童が本に親しむ機会をわずかではあるが増やすことはできた。

●一方で、高学年の平均貸出冊数が増えていない原因を考えてみたい。児童は、買ってもらった本など自分の好みの本をよく読んでいるのではないだろうか。そのこと自体は悪いことではないが、図書館の様々なジャンルの本を見て、興味を持ち、借りたいと思わせる工夫がまだ不足していると感じた。

◆ 注目POINT ◆

- 校内読書感想文コンクールでは、入賞すると配架の本を最初に読むことができた。感想を書いて読後の思いを深める体験と読書への意欲をさらに高めることができた。
- 100冊以上読んだ児童へプレミアム賞を授与した。校長室で校長から賞状の授与があり、低学年では、これがきっかけとなり、さらに意欲的に読書に取り組む姿が見られた。

(3) 令和6年度モデル校事業の総括・今後

各モデル校において、子どもの読書や学校図書館の活用に関する課題を見出し、解決に向けた取組を行っていただきました。

子どもが読書に親しむ機会の提供として、表彰制度の実施やおすすめの本の掲示などにより児童の読書意欲を引き出していくいただいたり、図書委員会を中心となった図書館行事・イベントの実施等を通じ、児童同士の交流活動につなげていただいていると、多彩な読書活動の推進に取り組んでいただきました。

また、子どもの読書環境の整備・充実に向け、移動式書架やブックトラックの整備や蔵書の見直しなどにより、本を手に取りやすく、授業で図書資料を活用しやすい環境をつくりていただいた学校もありました。

そのほか、地域の読み聞かせボランティアの活用や、保護者や地域を招いた選書会の実施など、家庭や地域、ボランティアなどと連携・協力しながら、読書活動の推進に取り組んでいただきました。

どのモデル校も、子どもの読書活動を支える環境を整えるべく、工夫を凝らした取組を実施してくださいました。今回の実績を踏まえて、次年度以降も引き続き取組を推進していただければ幸いです。

また、令和6年度の実施内容や、実施した結果、新たに明らかになった課題等を他校にも積極的に共有していただくことで、本市における学校図書館のさらなる効果的活用や子どもの読書に関する理解の推進に努めていただきたいと考えております。

結びに、真摯に活動に取り組まれた令和6年度学校図書館運営モデル校の先生方及び図書事務員の皆さま、並びに事業実施へのご支援・ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。





令和 6 年度

仙台市学校図書館運営モデル校
取組事例集

令和 7 年 11 月発行

仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課
〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目 5 番 12 号
TEL : 022-214-8886 FAX : 022-268-4822
Email : kyo019310@city.sendai.jp